

s a i k u r u

明日へつながる、より確かな医療連携をめざして。



本年もどうぞ宜しくお願いいたします

済生会熊本病院 医療連携部は、

4つの部署(地域医療連携室・医療福祉相談室・療養支援室・病床管理室)総勢41名で組織しております。

2021年も地域の医療機関・介護施設の皆様と共に、患者さんのストーリーに責任を持った連携を推進いたします。

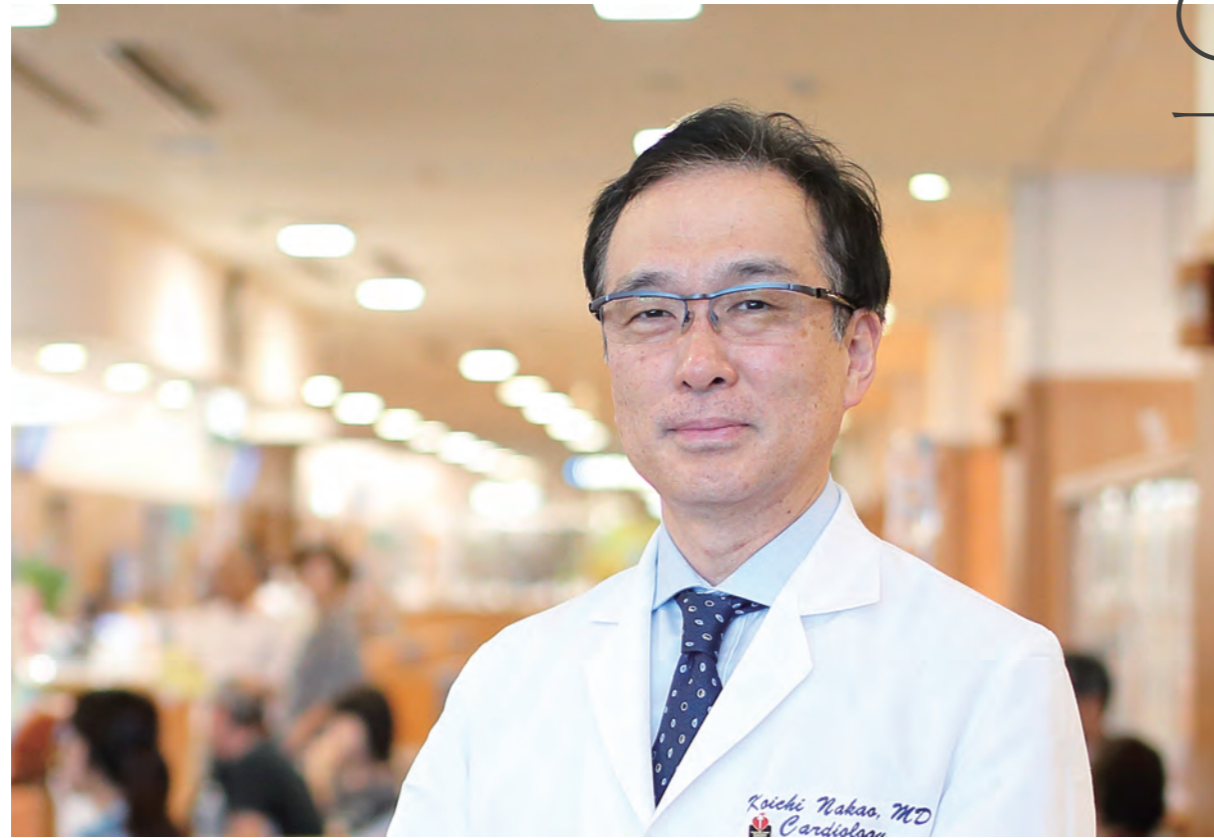
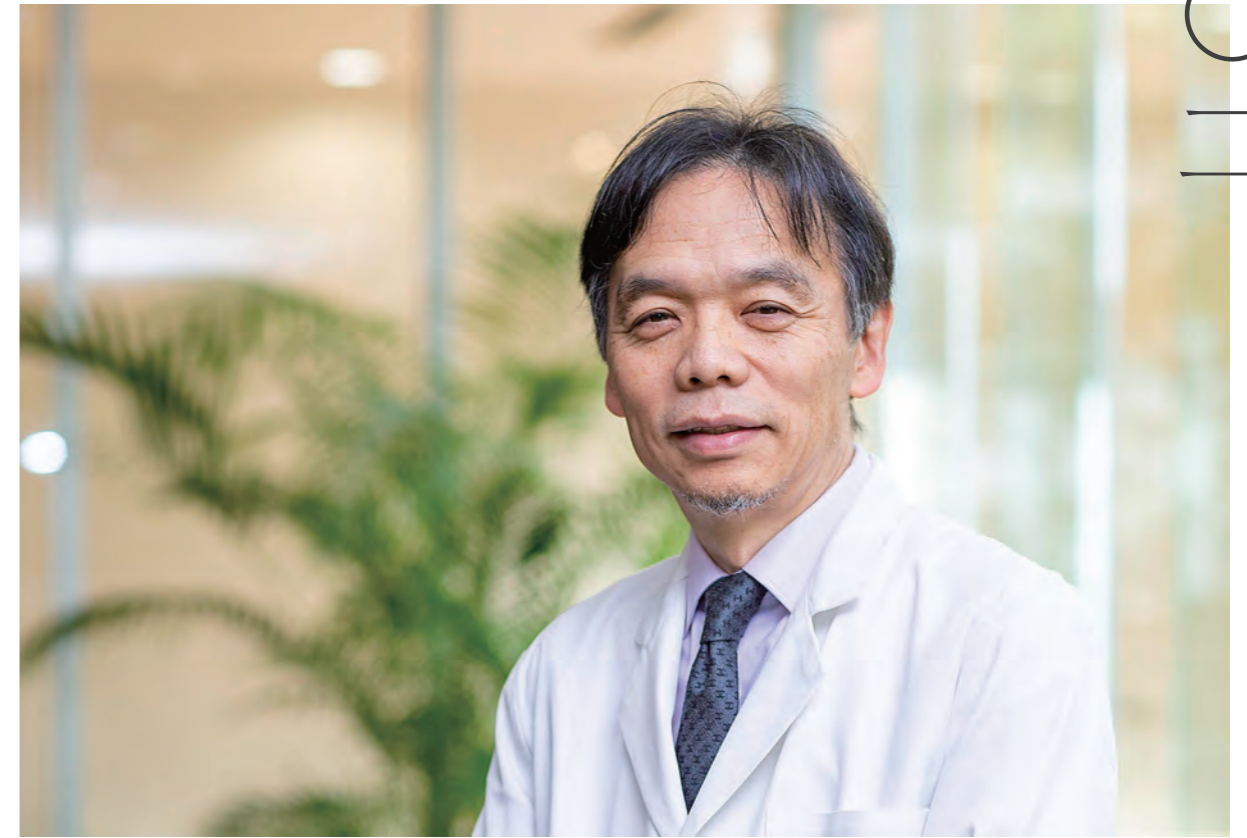


[2月 外来医師一覧表]

新/新規患者 再/再来患者 予約/予約患者

診療科		月	火	水	木	金
整形外科(要予約)	新	安藤 卓	立石 慶和	大野 貴史(第1・3・5週) 寺本 周平(第2・4週)	上川 将史	柳澤 哲大
	再	安樂 喜久	上川 将史(第1・3・5週) 柳澤 哲大(第2・4週)	安藤 卓	高田 紘平(第1・3・5週) 三浦 溪(第2・4週)	立石 慶和(第1・3・5週) 大野 貴史(第2週) 寺本 周平(第4週)
腎臓科	新・再	—	神吉 智子	江口 剛人	板井 陽平	岩田 康伸
【透析シャント専門外来】	新・再	副島 一晃	—	—	—	—
ロボット 専門外来	前立腺・腎	新・再	渡邊 紳一郎	—	—	渡邊 紳一郎(第2週)
	呼吸器外来	新・再	吉岡 正一	岩谷 和法	—	—
	消化器科	新・再	坂本 快郎	—	—	田中 秀幸
	心臓血管外科	新・再	—	—	—	押富 隆
泌尿器科(要予約) ※福井医師・三上医師・占部医師も「ロボット手術」に対応しております。	新・再	町田 二郎 担当医	福井 秀幸	占部 裕巳	三上 洋	富永 成一郎
心臓血管外科	新・再	—	上杉 英之	出田 一郎	押富 隆	—
【下肢静脈瘤専門外来】	再	担当医(第1・3・5週)	—	—	—	担当医
循環器内科	新・再	平井 元子(第2・4週) 坂本 知浩 劔 卓夫 井上 雅之 根岸 耕大	田中 靖章 奥村 謙 由布 哲夫 市丸 直美	兒玉 和久 岡松 秀治 堀尾 英治 林 克英	山室 恵 奥村 謙 金子 祥三 神波 裕	田口 英詞 古山 准二郎 鈴木 寛人 堀端 洋子
	【デバイス/遠隔モニタリング外来】	再	—	—	—	担当医
【LVAD外来】	再	—	—	兒玉 和久(第2週) 岡松 秀治(第4週)	—	—
呼吸器外科	新・再	吉岡 正一	岩谷 和法	—	松石 健太郎	—
呼吸器内科 ※全医師が「COPD専門診療」に対応しております。	新・再	一門 和哉 関戸 祐子 江口 善友	保田 祐子 神宮 直樹 西山 健太(第1・3・5週) 中村 和憲(第2・4週)	一門 和哉 村中 裕之(第1・3・5週) 飯尾 美和(第2・4週) 久永 純平(第1・3・5週) 江口 善友(第2・4週)	保田 祐子 川村 宏大	坂田 能彦 仁田脇 辰哉 久永 純平
【化学療法】	新・再	坂田 能彦	坂田 能彦	川村 宏大	神宮 直樹	—
糖尿病内科	新・再	松尾 靖人	星乃 明彦	松尾 靖人	星乃 明彦	星乃 明彦(第1・3・5週)
腫瘍内科	新・再	森北 辰馬 小田 尚伸	森北 辰馬 小田 尚伸	森北 辰馬 小田 尚伸	森北 辰馬	森北 辰馬 小田 尚伸
【緩和ケア外来】	新・再	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
脳神経外科 ※全医師が「未破裂脳動脈瘤 専門診療」に対応しております。	新・再	天達 俊博	山城 重雄	松崎 啓亮	植川 顕	加治 正知
【ガンマナイフ外来】	新・再 予約	後藤 智明 山本 東明	後藤 智明 山本 東明	後藤 智明 山本 東明	後藤 智明 山本 東明	後藤 智明(新患のみ) 山本 東明
脳神経内科	新・再	稲富 雄一郎	米原 敏郎	池野 幸一	松原 崇一朗(第2・4週) 松尾 圭将	永沼 雅基
外科	新・再	沖野 哲也	松本 克孝 後藤 理沙	高森 啓史 辛島 龍一	増田 稔郎 清水 健次	新田 英利
消化器内科(要予約)	新・再	工藤 康一 古川 歩生 吉田 健一	岩崎 智仁 近澤 秀人 上原 正義	須古 信一郎 上川 健太郎 塩屋 公孝(AM) 江口 洋之(PM)	浦田 淳資 近澤 秀人 山邊 聡	上原 正義 後藤 健太 今村 治男
放射線科	新・再	松山 圭矢	松山 圭矢	松山 圭矢	松山 圭矢	松山 圭矢

※担当医師は月により変更することがあります。ご了承ください。

〇
一、〇
一、

院長
中尾浩一
Koichi Nakao

乗り越えて、未来へ。

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、当院の諸活動につきまして格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、済生会熊本病院では「地域との共生(アウトリーチ)」を2020年の年間テーマに掲げ、医療機関の皆様はもとより、患者、市民の皆様と交流する様々な健康プロジェクトを企画しておりましたが、ご高承の通りCOVID-19がもたらすインパクトは強大で、暫くは最優先でこちらの対応に万全を期す必要に迫られております。

COVID-19は3つの危機をもたらしました。感染症による身体的危機、医療者の矜持と連帯を脅かす精神的危機、そして偏見や差別に基づく社会的危機です。目には見えないもの、得体の知れないものに対する恐怖は、時に私たちから理性的な判断を奪います。一人ひとりの感染リスク感度の違いは、こころの分断を招きます。昨年4月、私たちは危機対策会議を組織し、危機の本質についての議論を重ね、COVID-19にも、それ以外の私たちが本来治療すべき疾患にも、しっかりと対応する体制を整えて来ました。未だ先の見えない状況ですが、足元を見極め、皆様と築

き上げてきた地域医療連携を基に、協調して危機に立ち向かいたいと思います。

さて、危機の今だからこそ、自らの未来は自らの手で選び取らなくてはなりません。私たちは2024年までの中期事業計画として「デジタル化を基盤とした価値中心の医療の創造」を掲げました。オンライン技術の活用は、地域との共生に新たな形をもたらす可能性があります。このビジョンに描くのは、デジタル技術の活用が、連携の成果を高め、同時にそのコストを低減する、すなわち地域医療の価値を高めていく姿です。

今、当地のCOVID-19患者が急増しています。大変厳しい状況ですが、歴史上、終わらなかったパンデミックはありません。皆様のお力をお借りして、乗り越えて行きたいと思っております。変わらぬご理解とご支援のほど、どうぞ宜しくお願いいたします。

2021年1月4日

医療連携部長
坂本知浩
Tomohiro Sakamoto

コロナの贈りもの

2021年が幕を開けました。新年、おめでとうございます。本年も済生会熊本病院医療連携部をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

これまでと同じ明日が続くと信じていた昨今の頃、それは直後に勃興した感染症により、大きく様変わりすることになりました。斯様な困難の中にあっても、当院との変わらぬお付き合いをして頂きました各連携医療機関の皆様には、改めまして心より感謝申し上げます。有り難うございました。

人類の歴史においてパンデミックは、様々なイノベーション、変革をもたらして来ました。17世紀のイギリスでは、ペストの大流行による大学の閉鎖によって出来た時間で、ニュートンが万有引力の法則を発見しましたし、100年前のスペインかぜは事実上、第一次世界大戦を終結させたと言われております。現在、猛威を振っているCOVID-19は、我々にどのような変化をもたらすのでしょうか？

私は以下の2点を挙げさせて頂きたく存じます。一つは非グローバル化の流れの加速です。地域と密着した地域の顧客満足

度を向上させる「ローカライゼーション」がより重要になってくると思われ、これは「医療を通じて地域社会に貢献する」という、当院の理念にも通じる考え方です。もう一点は「デジタルトランスフォーメーション(DX)」の進化です。ご存じの通り医学領域の学会や研究会は、もはや以前と同じ形態には戻れないと思えるくらい、オンラインでの交流の利点を実感出来ており、この動きが医療連携の分野でも広がって行くのは確実と考えます。

感染症のパンデミックは100年に一度の出来事です。2020年代に現役である我々は、他の世代が経験できなかった貴重な経験をさせて貰っているとも言えます。そんな時代に医療に従事できている事を幸運と考え、コロナ禍を奇貨と捉えて今後の成長に活かしていければと思います。

今年が皆様にとりまして良い1年であることを祈りつつ。

2021年1月4日